

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

.....幸樹会事業所.....

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



「葉陰に隠れてしばしの休憩」(カワウ) 絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

**都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」  
説明会に参加して**

2月14日に、「松戸プロジェクト」説明会があり、近藤克則千葉大教授の「生涯現役社会～都市型モデルづくりへの挑戦～生涯現役・社会参加・地域づくりで介護予防」という講演をお聞きしました。千人を超えるような参加者で、市民の関心の高さが伺えました。近藤教授は、日本老年学的評価研究(JAGES)による「スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等の地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症や転倒やうつリスクが低い傾向がみられる」という実証調査研究の成果などを話され、都市の資源を生かした介護予防モデルづくりに挑戦しましょう、と訴え

られました。

私達も、訪問看護・介護、看多機さんしょう、薬局などの仕事を通して、「ひとり一人の生活と人生を尊重する」「お世話するだけでなく良くするケア」を大切にした支援に努めてきました。そのなかで、病気や障害、認知症があっても、ひとり一人の人生は唯一無二のかけがえのないもの、どんな状況でも社会参加は可能であることを改めて感じ、学んでいます。

生涯現役をめざす元気な方々も、病気や障害、認知症で介護が必要な方々も、子どもから高齢者まで、人間関係づくり、交流が豊かになるような地域づくりに、私達も参加していきたいと思えます。

(代表理事 中野三代子)

# 千葉スイさん、百歳おめでとう！

—スイさん、2月1日で、さんしょう第1号の百歳ですね。おめでとうございます。百歳のご感想は？

ありがとうございます。嬉しいねえ。今日は、皆さんにきれいだって言われるけど（おしゃれをしてお化粧したので）、花には負けちゃうなあ。それに、いっぱい写真とられると減っちゃうよ。恥ずかしくて穴があったら入りてえなあ。

—百年間で、一番の思い出は？

結婚したことが1番かなあ。旦那は背が高い人だった。自分のうちと、社宅内のと2回結婚式をやったねえ。花嫁衣裳も着たよ。写真もあるよ。こどもはひとり生まれたねえ。

この子はちっちゃいの、アハハハ。旦那は足尾銅山で働いていた。空気の悪いとこで働いていたから長生きできなかったなあ。いくつで亡くなったかって？ …憶えていないなあ。

—スイさんは、どのご出身でしたっけ？

私は、栃木県佐野の生まれ。若い時は生まれた家が床屋だったので、私も床屋をやっていた。15歳ぐらいから働いていたな。家を継いだ兄貴の店で働いていた時期もあった。お客さんが散髪中や顔そり中に眠ってしまうと、お客さんが起きてしまわぬように声を出さずに、サッサと仕事しろと兄貴に尻を蹴っ飛ばされたりしたなあ。厳しかったなあ。外に出て鍛えられねばならねえと足尾の工場（銅山）の近くの床屋で働いていたこともあった。近くに家を借りて通っていたな。別の場所では住み込みで働いていたこともあったなあ。仕事は大変で、みんな貧乏だったけれど、手に職があるので、それでもマシなほうだったなあ。

—この辺りは昔どんな風でしたか？

何にもなくて田舎だったよ。雨がふるとぬかって、長靴はいても足がとられちゃうんだよ。暗い道で怖かったよ。最近は人家が増えたねえ。

あんた、自転車は乗れるのかい？

—はい。乗れますが、八柱は坂が多いので…。

そうだねえ。坂が多いからよっぽど上手じゃないと危ないんだよ。ひっくりかえっちゃうからな。気を付けないとダメだよ。私も、毎日乗ってたよ。お使いに行ったり、仕事行ったり。身体は動かさねえとな。

—これからどのように暮らしていきたいですか？



▲スイさん（真中）、娘さん（右）、親戚の方々と



▲三和病院の高林先生、看護師さん達もお祝いに



▲幸樹会の職員たちにかこまれて

どのようにと言われても、なるようにしかなんねえし、頑張られてと言われてもなあ。歳をとると体が利かなくなって大変だから、なるようにしかなんねえ。

## 2月のイベント

### 節分



▲まずは、鬼のパンツ、お面づくりから



▲“ワー！ 鬼だぞー！”

### 第7回地域交流カフェ・餅つき大会



2月21日は、第7回地域交流カフェ、餅つき大会で、40人を超える参加者でした（写真上）。つくたてのお餅をお雑煮、お汁粉、からみ餅、きな粉餅にして、堪能しました。お汁粉を村山さんから差し入れていただきました。ありがとうございました。そのあとは、

恒例の職員ハンドベル部の新曲「上を向いて歩こう」と手話部の中島みゆきの「時代」の演奏を楽しみました。そのあと、村里恵看護師作・演出の“フルフルズ”によるフルフル体操「明日があるさ」が披露され、最後に参加者みんなでフルフル体操をおどり？、大いに盛り上がりました（写真下）。



### 雑祭の準備

職員から寄贈の雛人形や手作りの雛人形づくりなど、雑祭の準備も万端整いつつあり、楽しみにしています。



### 認知症ケアの実践からー八柱学習会報告

## こんな時、 どうする？ どうした!?

ーその2ー

### 拒否から納得の入浴へ

さんしょう介護職員 仲田三郎

千葉県認知症介護実践研修の実習事例についてお話しします。

Cさんは、自宅では入浴が困難なので、入浴も重要な目的にしてさんしょうを利用しています。当初、入浴拒否をしているCさんを来所後すぐに“言葉巧み”に浴室に誘導し入浴していただくことがあり、怒りの発言ではないが、ご本人からは「今日もだまされて入浴してしまった」との発言も聞かれました。

そこで、「説明し納得していただき入浴する」ことを目標にして、Cさんにも職員にも協力の同意をえて実習をはじめました。

第1週目、来所時すぐに浴室に誘導することをやめ、リビングルームでお茶を飲んだ後に浴室に誘導し入浴していただくようにしました。以前と同じように好きな入浴剤を選んで入浴しました。この週も「今日も

だまされてお風呂に入ってしまった」と、笑いながらの発言がありました。また、声掛けされてから入浴まで時間がかかってしまうことにご本人の忸怩たる思いがあって、それが「入浴したくない」という思いになっている可能性もあると感じました。

第2週目は、リビングルームでお茶を飲み、バイタル測定も行ってから入浴の案内をしました。「寒いから入らない」との入浴拒否もあったので、脱衣室と浴室の設定温度を25度にし、入浴前の浴室ドアを少し開けて、脱衣室と浴室温度が均等になるように工夫しました。この週は、入浴拒否もなく、寒いとの訴えもありませんでした。

第3週目は、Cさんが納得して気持ちよく入浴できているか、確認する週です。これまで午前中に入浴でしたが試しに午後に入浴していただくようにしましたが、抵抗なく納得して入浴されている様子でした。入浴後は、女性職員にお化粧をしてもらい、にこやかにしていました。

実習後の検討会では、嘘とは言わないが“言葉巧みに”誘導することはうまくいったとしても問題があるのでは、との意見がありました。

Cさんの場合でも、ご本人に入浴の介護サービスを受けていることを認識してもらい努力を継続し、説明を繰り返すことでわかってきたし、一定の期間が過ぎると職員とも良好な関係ができて、そうすると入浴のお誘いも納得していただけるようになりました。

ケアは、裸になったり排泄したり、非常に個人的に配慮が求められる仕事です。本人の気持ちを想像して支援することが必要だと、あらためて感じました。

## 保清を拒む方への支援

### あんず訪問看護ステーション所長 奥村万里子

お一人暮らしのDさんは、3年弱部屋に引きこもり状況にありました。当初の訪問看護の依頼は、2週間に1回のシャワー浴介助でした。そのシャワー浴も、訪問看護師の顔を見るなり、「今日は勘弁してください」と手をかざし顔をそむけられることが多くありました。

そこで、気持ちが良かった、終わった時に自分でやったという達成感が残るような支援を心がけました。どうしてもシャワー浴をしたくない時は、足浴に切り替え、無理強いしないようにしました。シャワー浴をしている最中でも「もうやめて下さい」と何度も言われてしまうので、昔働いていた時のことや家族で行ったイベントなどのお話をしながら、楽しい思い出とともにシャワー浴が終わっているなどの工夫もしました。清拭しか出来ない時でも、「温かいタオルを作ってきたので、ご自分で拭いていただけますか」と伝える

と、看護師に背をむけて自分で清拭し、更衣され、パットを装着した下着を交換されていました。

この間に、1週間に1回の訪問に変更ができ、シャワー浴や清拭・更衣の後、「気持ちよくなりました？」と聞くと、顔を上げてにこっと笑って「気持ちよかったです」と言ってくださるようになりました。訪問すると、2階の部屋から出て、ご自身で鍵をあげ、そのまま風呂場の隣にある台所の椅子に座って待つてくれるようになりました。「来週の土曜日もこられるのね」という言葉も聞かれました。

しかし、1週間に1回の訪問では、汚れた下着や洋服を着替えることはできないため、気持ちの良い状況を保ち続けることが十分できません。これからも、見慣れた顔ぶれが訪問し、少し回数を増やして訪問できるようにするなどの検討を関係者に依頼し、気持ちの良い日々が増えるよう支援を継続していきます。

## 幸樹会に運動部誕生！



松戸七草マラソンに続いて、1月29日に開催された館山若潮マラソン(42.192km)に岡本健吾さん(写真左)、加藤義幸さん(写真右)が挑戦。岡本さんは4時間29分1秒、初挑戦の加藤さんは5時間22分20秒の立派な成績でした。これらの実績をふまえて、「幸樹会運動部結成」が高らかに宣言されました。

## 八柱学習会(定期勉強会)

●前回報告 2月17日(金)実施。テーマ「看取りケア①」 助言者 武井幸穂氏

【参加者感想】参加者17名。宮崎和加子・竹森志穂他著『在宅・施設での見取りのケア』を読んで見取りのケアの基本的な知識を学びました。

●次回学習会予定(定例日:毎月第3金曜日)

日時:3月17日(金)18:30~19:30

テーマ:看取りケア②、「看多機での見取り事例」、E・キューブラー・ロス「死の瞬間—死とその過程について」から

\*場所:幸樹会館2階 \*参加自由

看護師・介護職・ケアマネ・薬剤師募集中!  
連絡先: ☎047-701-7550 本部: 中野迄